

『バシエ』訳註（3）

—パドマサンバヴァの入藏—

津曲 真一

はじめに

本研究は8世紀に古代チベット（吐蕃）王国を統治したティソン・デツェン [khri srong lde ('u) btsan] 王時代の王室の様子を記録したと伝えられる史書『バシエ』 [sba bzhed, dba' bzhed] について数回に分けて訳註を試みるものである⁽¹⁾。ティソン・デツェン王治世下の古代チベット王国は同国が軍事・文化両面において興隆を極めた時期にあたり、宗教史の観点から見れば、チベットの在来宗教と中国からもたらされた宗教伝統の教勢が次第に衰退し、チベット宗教界が急速にインド仏教へと傾注した時期でもある。『バシエ』には、当時のチベット王室と中国・インドをはじめとする隣接諸国との宗教上の交流、およびティソン・デツェンが仏教の国教化を企てた後、チベットに仏教が定着するまでの経緯などが記録されていることから、同書の研究は古代チベット王国と隣接諸地域との宗教上の交流関係を見る上でも、また同国における仏教導入の経緯を辿る上でも極めて重要な意義を持っている。

筆者はこれまで、古代チベットにおける仏教導入とその定着の経緯、及びその際に生じたと考えられる在来宗教と新来の宗教伝統の相剋に対する関心から、チベット古代史に関する諸言説について研究を行ってきた⁽²⁾。『バシエ』の記述は、プトゥン・リンチェントゥブ [bu ston rin chen grub, 1290-1364]、パウオ・ツグラー・テンワ [dpa' bo gtsug lag phreng ba, 1503-1564/66]、ガワン・ロサン・ギャムツォ（ダライラマ5世） [ngag dbang blo bzang rgya mtsho, 1617-1682] 他、多くの仏教徒史家たちの手に成る歴史書の中で引用・参照されており、これらの仏教史書については既に一定の研究の蓄積が認められるが、『バシエ』そのものについてはこれまで十分な研究が為されてきたとは言いがたい。こうした研究状況に鑑み、本研究は『バシエ』の包括的研究へ向けた準備作業を行うものでもある。

1. 資料の特徴と研究方法

『バシエ』原本の成立は9世紀頃に遡るとも伝えられるが、その後、様々な附加・潤色が施されて今日の形に到った可能性が高く、その成立過程・作者については未だ不明な部分が多い。先ずその作者については、ティソン・デツェン王治世下で大臣として活躍したとされるバ・セーナン [sba (or, dba') gsa'i snang] とするもの、バ・セーナンとティソン・デツェンの共作であるとするもの、シャーントラクシタのもとで受戒しチベット初の出家僧になったと伝えられるバ・ラトナ [sba ratna] とするものという三説があり、これに加え、バ・ラトナとバ・セーナンは同一

人物であったとする立場や、『バシエ』はそもそもバ・セーナンの名を語って編まれた他の大臣による偽作であるとする立場⁽⁵⁾もある。また後世に記述が附加された『足の付いたバシエ』(後述)と呼ばれるものについては、カダム派の僧侶が編纂したという伝説もあり、その作者については未だ検討の余地が多く残されている。ゲオルグ・レーリッヒ(George N. Roerich, 1902-1961)の研究⁽⁴⁾に依れば、『バシエ』は本来、ティソン・デツェン作とされる『ギャルシエー』[rgyal bzhed]とラチェン・ゴンパ・ラブセル[bla chen dgongs pa rab gsal, 953-1035]⁽⁵⁾の手に成るとされる『ラシエー』[bla bzhed]という他の二つの文献と合わせた一冊の書物の一部であったが、『バシエ』を除く二つは散佚してしまった。更に『バシエ』にはその後、真性のもの(『清浄なバシエ』[sba bzed gtsang ma])と附加・改竄されたもの(『足の付いたバシエ』[sba bzhed zhabs btags ma])という二種が現れたが、前者は失われてしまったとされる。またパウオ・ツグラール・テンワの『賢者喜宴』[chos 'byung mkhas pa'i dga' ston]に依れば、『バシエ』は清浄なもの・足の付いたものという区別の他に、叙述内容の規模によって『大バシエ』[sba bzhed che ba]、『中バシエ』[sba bzhed 'bring ba]、『小バシエ』[sba bzhad chung ba]と呼ばれる三種が存在したともされるが、今日、こうした伝説の真偽を判断することは困難である。いずれにしても、今日確認できるものは『足の付いたバシエ』のみであり、本研究において訳註を試みるのもこの『足の付いたバシエ』である。『足の付いたバシエ』は、ティソン・デツェン王の三男ムティ・ツェンポ[mu tig btsan po, 763-804]以後の事績に関する記述、或いは11世紀以降に西チベットで始まった仏教復興運動以後の仏教伝播(後伝期)以後の歴史を含んでいるが故に、'足の付いたもの'[zhabs btags ma]と呼ばれるようになったと言われることが多い。しかし、トゥンカル・ロサンティンレー[dung dkar blo bzang 'phrin las, 1927-1997]の研究では、末尾にティソン・デツェン没後の王統、即ちヤルルン王家第39代王ムネ・ツェンポ[mu ne btsan po, 762-797]から第42代王ランダルマ[glang dar ma 'u dum btsan po, 803-846]までの歴史が附加されているものが『清浄なバシエ』であり、『足の付いたバシエ』とは、14世紀に活躍した埋藏経発掘者オギエン・リンパ[o rgyan gling pa]が発見したと伝えられる『五部遺教』[bka' thang sde lnga]の記述と異なる内容を含むという理由から「足の付いた」ものと呼び慣わされるようになったともされる⁽⁶⁾。

既に触れたように『バシエ』は多くのチベット人歴史家たちによって引用・検討されているが、この書物がチベットの歴史家たちの注目を浴びるようになったのは後伝期以降、恐らくアティンヤ[Atiśa, 982-1054]の高弟であったクトゥン・ツォンドゥ・ユンドゥン[khu ston brtson 'grus g.yung drung, 1011-1075]によって『大史』[lo rgyus chen mo] (『サムイェ寺詳志』[bsam yas dkar chag chen mo])等の史書が著された以後のことと思われる。『大史』はパウオ・ツグラール・テンワやガワン・ロサン・ギャムツォによっても読まれたとされるが、『バシエ』との関係で重要なことは、この書物が歴史家たちによって屢々『足の付いたバシエ』と呼ばれることがあるということである。それ故、『バシエ』の編纂史を辿る上で『大史』及びクトゥン・ツォンドゥ・ユンドゥンの著作を吟味することは今後重要な仕事となるであろう。一方、『清浄なバシエ』、及び『ギャルシエー』[rgyal bzhed]と『ラシエー』[bla bzhed]は、16世紀の学僧パウオ・ツグラール・テンワが著した『賢者喜宴』にはほぼ完全な形で引用されているとも伝えられる。またガワン・ロサン・ギャムツォの『西藏王臣記』[bod kyi deb ther dpyid kyi rgyal mo'i glu dbyangs]にも『バシエ』の引用・検討が見られるが、『バシエ』の記述に関する彼の検討・解釈には批判的な姿勢

が見て取れ、『バシエ』に対する彼の評価は後世の歴史家たちの『バシエ』観に少なからず影響を与えたと考えられる。

* * *

次に本研究が依拠する資料について概説しておきたい。現在、『バシエ』には6つの異版が確認できるが、これらはその内容の観点から三種に分けることができる。一つは(1)『贊普ティソン・デツェンと戒師ボーディサッタと阿闍梨パドマの時代、顕・密がそれぞれ為されたという足の付いたバシエ』[*btsan po khri srong lde btsan dang mkhan po bo dhi sa twa slob dpon padma'i dus mdo sngags so sor mdzad pa'i sba bzhed zhabs btags ma*]であり、これまでに以下の3点が出版されている。

- A. R. A. Stein <ed.>, Une chronique ancienne de bSam-Yas: sBa-bzed, edition du texte tibétain et résumé française, Paris: Bibiotheque de l'Institut des Hautes Etudes chinoises, Textes et Documents. 1961. 以下 [A] とする),
- B. sbyin pa rgya mtsho <ed.>, *btsan po khri srong lde btsan dang mkhan po bo dhi sa twa slob dpon padma'i dus mdo sngags so sor mdzad pa'i sba bzhed zhabs btags ma*, Delhi: bod gzhung shes rig dpar khang <Sherig Parkhang, Tibetan Cultural & Religious Publication Centre> , 1996 <1968>. 以下 [B] とする),
- C. bde skyid <ed.>, *btsan po khri srong lde btsan dang mkhan po bo dhi sa twa slob dpon padma'i dus mdo sngags so sor mdzad pa'i sba bzhed zhabs btags ma bzhugs so/ in: 《rba bzhed》 phyogs bsgrigs*, pp.1-79, *mi rigs dpe skrun khang* <徳吉編《巴协》汇编, 民族出版社, 2009年>. 以下 [C] とする)。

これら3点はほぼ同一の内容を持つが、編者による校訂に若干の相違が認められ、また私見によればAよりもB・Cのほうが優れている。また以上の3点と極めてよく似た内容を持つものとして(2)『宗教史の詳細な文書』[*chos 'byung gi yi ge zhib mo*]がある。これは「サムイエの壁の文書、バシエと呼ばれるもの。前伝期の宗教史と後伝期の伝播を僅かばかり合わせたもの」[*bsam yas rtsigs kyi yi ge rba zhed ces bya ba bstan pa snga dar gyi chos 'byung dang phyi dar gyi 'phros cung zad dang cas pa*]とも称されるもので、以下の1点が出版されている。

- E. bde skyid <ed.>, *chos 'byung gi yi ge zhib mo/ in: 《rba bzhed》 phyogs bsgrigs, mi rigs dpe skrun khang* <徳吉編《巴协》汇编, 民族出版社> 2009年, pp.159-236. 以下 [E] とする)。

更に、以上の4点とは明らかに異なる叙述を含むものとして、(3)『バシエと呼ばれるものより、バ・セーナン(法名バ・イエシエ・ワンポ)の述べた(主張した)もの』[*sba bzhed ces bya ba las/ sba gsal snang gi bzhed pa bzhugs/ (chos ming sba ye shes dbang po grags/)*]と(4)『バシエ』[*dba' bzhed bzhugs so*]という2点がある。前者はツグラール・テンワの『賢者喜宴』に引用される『バシエ』と非常に良く似ているが、完全に同一という訳ではない。また後者は近年チベットで発見されたと言われるものであり、他の『バシエ』がティデ・ツクツェン王以降の歴史を叙述するのに対し、この版はソンツェン・ガムポ王時代の事項に関する叙述を含んでいるという特徴がある。この版については既にパサン・ワンドゥとヒルデガード・ディームベルガーの英訳研究

(Pasang Wangdu and Hildegard Diemberger, *Dbā bzhed : the royal narrative concerning the bringing of the Buddha's doctrine to Tibet*, Verlag der Osterreichischen Akademie der Wissenschaften, 2000) があり、ヒルデガルド・ディームベルガーは、今日出版されている『バシエ』の中ではこの版が最も古いと主張している。これら2点は何れも、前述の『《巴協》 汇编』に収載されている。

D. *sba bzhed ces bya ba las/ sba gsal snang gi bzhed pa bzhugs/* (chos ming sba ye shes dbang po grags/), (bde skyid <ed.>, 《rba bzhed》 phyogs bsgrigs, mi rigs dpe skrun khang 〈徳吉編《巴協》 汇编, 民族出版社) 2009年, pp.80-158. 以下 [D] とする)

F. *dba' bzhed bzhugs so* (bde skyid <ed.>, 《rba bzhed》 phyogs bsgrigs, mi rigs dpe skrun khang 〈徳吉編《巴協》 汇编, 民族出版社) 2009年, pp.237-281. 以下 [F] とする)

本研究では上に挙げたA・B・C・Eの史料をもとに校訂テキストを作成し、必要に応じてD・F、及び『賢者喜宴』(略号KhG)を参照しながら訳註作業を進めることにしたい。また本研究では、『バシエ』に記される事柄に関連する記述が他の史書に見える場合、その概要を随時註に記すことにした(各文献の略号は本論の文末に附す)。これは『バシエ』と他の史書の比較研究のための準備作業としての意味を持つものである。

凡 例

- チベット語のローマナイズは拡張ワイリー方式に基づき、[] 内に示した。
- 訳文における節題、改行、「」, ‘ ’, “ ” 等の括弧は、すべて訳者による補足・強調である。
- 【 】内に記した略号・数字は、各資料の頁番号を意味する。(例:【A5】→以下は[A]=Une chronique ancienne de bSam-Yas: sBa-bzed, edition du texte tibétaine et résumé française, 5ページの訳註である)。
- 参照文献の略号については本稿の末尾にアルファベット順に並べた。
- 訳文は極力原文に忠実な翻訳を心がけたが、日本語として読みやすいように [] によって訳文を補った。こうした訳文の補足には、当該の文章に対する筆者の解釈が反映されていると理解されたい。
- 本論で言及するチベット人の生没年については『雪域历代名人辞典』(ko zhul grags pa 'byung gnas, rgyal ba blo bzang mkhas grub, gangs can mkhas grub rim byon ming mdzod, kan su'u mi rigs dpe skrun khang, 1992) に記されるものを参考までに附した。

2. 『バシエ』訳註 【A18.13-21.15, B20.14-24.1, C16.15-19.10, E174.21-177.12】

贊普 [=ティソン・デツェン王] はバ・セーナン [sba gsal snang] を [仏] 法のチェンパ⁽⁷⁾に任命した [。その] 後, [セーナンを, 仏] 法のために中国へ使者として [派遣するよう] 命じ, [上からの (=贊普の) 御意向の通り⁽⁸⁾] 実現すれば, 男子に⁽⁹⁾大銀⁽¹⁰⁾ [という] 褒美をすぐに与える [という] ことが決まった。[さらに贊普は] ケーブン [khad dpon] ⁽¹¹⁾にスプラン (ダン) ・ギャラ・レクシー [sbrang rgya ra legs gzigs] ⁽¹²⁾を任命し, オクブン ['og dpon] ⁽¹³⁾にサンシ [sang shi] ⁽¹⁴⁾を任命したのち, [これら三者を含む] 30人の使者を下方 [=中国] へ派遣した⁽¹⁵⁾。[そし

て] 贊普が [仏] 法を行わないのは不適切である [かどうか] ということを【A19】協議することが、王と臣下 [の間で] 決まった⁽¹⁶⁾。

使節団の入唐

その時、中国皇帝 [rgya rje]⁽¹⁷⁾の [臣下である] ブムサン⁽¹⁸⁾ [・ワンポの前] に [居た] 一人のジュの繩索に精通する者が⁽¹⁹⁾、「これより6ヶ月と6日 [後] に、西方から、中国皇帝 [のところ] に、菩薩の化身 [である] 【B21】二人の使者がやってくる」と言った。[ブムサン・ワンポが]「それを何によって知ったのか [=どうしてそれが分かったのか]」と訊くと、[ジュの繩索に精通する者は]「我がジュの繩索の占いによって得た [=ジュの繩索の占いによって知った] のであり、その者 [たち] の特徴 [はこれこれであり]、そして体つきはこのような [者が] やってくる」と言って、仮面を二つ描いた⁽²⁰⁾。[ブムサン・ワンポも中国皇帝の御前に使者を派遣して⁽²¹⁾ そのことを中国皇帝に御報告したところ、[中国皇帝からは]「それら二者に対してリムド⁽²²⁾を十分におこなったうえで、私の前に送り出しなさい」という教示が得られた。その後、定められた時に [=ジュの繩索に精通する者が予言した時に] 30名の使者が [ブムサンに] やってきて、[更に、ジュの繩索に精通する者が造った] 仮面と、オクブン [=サンシ] とチェンパ [=バ・セーナン] の容姿が一致したので、[チベットからの使者たちをもてなすために] 絹の住居 [dar gyi lding khang] がつくられ、馬車に乗せられてリムドがおこなわれた⁽²³⁾ [。その] 後、ケンシ [keng shi]⁽²⁴⁾へ行行った。[そして] 他の使者たちも [馬に乗って⁽²⁵⁾ 上]に進んだ。[そしてケンシに到着し、] 使者たちは中国皇帝に挨拶をした。中国に菩薩の化身である二人の使者がやってくると広く知られており、名前もダルカン、ダルカン [=絹の住居] と呼ばれた。和尚や信心深い者が [チベットからやってきた使者たちのところに] 雲のように集まっ [てき] て、[中国皇帝は] 家屋と壁面と柱と空を全て絹で覆って [使者たちを迎え、] 香と奏楽によって供養し、[彼らに] 何でも好きなことをさせた。

中国皇帝は [バ・] セーナンに「汝のような人以外に、私の意に適う者はおらず、中国のジュの繩索の [占いを行う] 者も“菩薩の使者がやってくる”と言っ [て、彼が造っ] たところの仮面も汝に似ている。汝は馬の [鳴き] 声 [=馬鳴] という菩薩の化身であるという。汝が欲しいものを褒美として与えよう」という御言葉を授けた。[バ・] セーナンが「皇帝の御尊顔を拝謁すること [自体] が喜びであり、他と異なる [=格別な] 御言葉を賜りました [。これらの] ことよりも良い褒美などございませんので、他に何も求めません。[ただ] 瞑想の教えを受けるために、和尚⁽²⁶⁾を一人、何卒ご紹介下さい。」と言うと、中国皇帝はそれを許し、急遽、使者を中国皇帝の馬に乗せて派遣した。そしてエクチュ⁽²⁷⁾のニマ和尚⁽²⁸⁾が呼び寄せられ、[バ・] セーナンは【A20】[和尚から] 瞑想に関する教えを受け取った。そして【B22】[瞑想の] 修習をし [てい] た時、[中国皇帝はバ・] セーナンに、褒美として、中国の小鳥 [rgya'i bye'u], 100サン [srang] の金箔 [gser shog], 小豆ほどの [大きさの] 真珠の数珠を10連、500反の絹、一反のペツェヘン⁽²⁹⁾の緞子 [など] 他よりも優れたものを下賜した。[さらに] チベットの贊普の経箱に従うことを決め、贊普に贈り物 [として] 1,000反の絹、オパール帽子を一つ、1ドム (一尋) の菓果の皿⁽³⁰⁾を一つ授け、他の使者たちにも高価な褒美を下賜した [。その] 後、[使者たちは] 使者の

返事とともに [=託された返信書簡を持って] 再びチベットへ去った。そして贊普の御前で [中国皇帝から託された] 贈り物を差し上げ、[以上で] 職務は果たし [まし] た [と贊普に奏上した⁽³¹⁾]。

パドマサンバヴァの入藏

贊普も巧みに尚論たちと [話し合い、その結果、仏] 法を為すべきであることが決まった。[しかし] アーツァリヤは [まだ] 招聘しないままであった。[バ・] セーナンは国に [=唐からチベットへ] 去った。そして贊普は [バ・セーナンに対し] 「汝が阿闍梨 [a tsarya] [=シャーントラクシタ] をお招きせよ」という御言葉を授けた [=命じた]⁽³²⁾。

[王の命を受け、バ・] セーナンがマンユル⁽³³⁾に行くと、ボーディサッタ [=シャーントラクシタ] は、閻浮提で [最も] 強い魔力を持つ比丘 [である] パドマサンバヴァと、神堂 [lha khang] を建てるチャゲン [phywa mkhan]⁽³⁴⁾と [ともに]、3人が一緒に [そこに] 居た。[バ・セーナンは] その者 [たち] をマンユルから舟によって河を渡って [チベットへ] 招いた⁽³⁵⁾。

ニエモ・トゥーカル [snye mo thod dkar]⁽³⁶⁾に到着すると、パドマサンバヴァ [は、そ] のお口から「明日 [進む] 河の向こうには孤獨地獄 [nyi tshé ba'i dmyal ba] がある [。その] ことを哀れむべきである」と仰ったのち、舟を河に流した。その後、[舟から降りて⁽³⁷⁾] オユク ['o yug]⁽³⁸⁾でトルマ [gtor ma] を放じて瞑想を為さったことにより河が鎮まった。[その後、ナム [gnam] の沸騰した水 [が流れる地] に至り、そこで一朝、瞑想を為さったことにより河も鎮まり、湯気も三日間ほど止まった。⁽³⁹⁾ 翌日シクラ [shi ku la] に到着し、チャンナム [byang snam] で銅鍋を一つ⁽⁴⁰⁾ [取り出し、その中で⁽⁴¹⁾] 驢馬の肉⁽⁴²⁾を煮ると、ルツァンパ [klu tshangs pa] という者が「夜叉を調伏する方法を見せよ」[と] 言った。すると、阿闍梨パドマ [サンバヴァ] は「大夜叉に赤い竈⁽⁴³⁾を与えよ」と仰った後、銅鍋を蹴飛ばしたところ、タンラ [thang lha]⁽⁴⁴⁾が怒って雪 [山の中] で轟音が生じ、黒い雲が出現し、雷鳴と稲光 [が生じ、] 【A21】そして雹が降った。

その後、ゲルタラ [gal ta la]⁽⁴⁵⁾を渡ってニンドウン [snying drung]⁽⁴⁶⁾に到着すると、[そこには] チベットで [仏] 法を行うことを認めない従順ならざる白龍⁽⁴⁷⁾が居た。[パドマサンバヴァが] 「それ [=白龍] を誓約のもとに入れて教化する必要がある」と仰ると、その龍は外海 [phyi'i rgya mtsho] へ逃れた。[パドマサンバヴァは] それを捕らえて誓約の下に入れると仰ったのち、曼荼羅を5つお造りになって3日間瞑想をなされたことにより、雪の轟音が鎮まり、国も安らかになった。[白] 龍も誓約に縛られた。タンラは [パドマサンバヴァの] 御言葉を聞くと約束した⁽⁴⁸⁾。阿闍梨の従者はトユルに到ると、ツァンパの団子を造った。

そしてラマレシヨに到着してペンユル [を御覧になったところ⁽⁴⁹⁾] 「口を開いた馬の赤い死骸の如き貧苦の国には行かぬ」と仰って、トゥールンのパレー [stod lung spa ral] に到った。[そして] ツンモ溪谷の岩 [btsun mo phreng gi brag] [に] 阿闍梨 [=パドマサンバヴァ] が行くと [そこに] 塊のようなもの [があった。パドマサンバヴァは] 「この塊を切らなければチベットは外道で満ちる」と仰っ [て、それを切っ⁽⁵⁰⁾] た。[パドマサンバヴァはさらに] 「盆 [地] に麦を植えよ」と仰ったうえで、水がなかったので「水は私が出す」と仰って錫杖 [の] 柄 [で] 地

[面] をコンコン [tham tham] としたところ、10の泉⁽⁵¹⁾が出た。それ [ら] は “盆 [地] の神泉” [gzhong pa'i lha chu]⁽⁵²⁾ と知られる [ようになった]。

その後 [パドマサンバヴァ] は 「私がニェタンに行く時がきた」と仰り、[さらに] 「このカルナク [mkhar nag] の湖には荒々しい龍とツェンがいる [ので、] これを調伏する」と仰った。[そして] 「この者は甚だ [大きな] 魔力を持つ者である [ので、] これは調伏するべきである」と仰ったのち、岩に世尊・[金剛] 薩埵のお身体を一つ⁽⁵³⁾ お造りになった。ネパールの石工は 「チベットの石で造作ができるかどうか見る」と言って、岩に鹿の姿を一つ掘った。それからガムシェー [ngam shod] に到った。その後、スルカル谷 [zur mkhar 'phrang]⁽⁵⁴⁾ で石の仏塔を五つお造りになった後、宮殿に到着した。

3. 校訂テキスト

btsan pos sba⁽⁵⁵⁾ gsal snang chos kyi spyang par⁽⁵⁶⁾ bskos⁽⁵⁷⁾ nas/ chos kyi ched du rgya yul du pho nyar⁽⁵⁸⁾ bsgos pa⁽⁵⁹⁾ ste/ grub na bu la dngul chen po⁽⁶⁰⁾ bya dga' bla thabs su gngang bar⁽⁶¹⁾ chad byas/ khad dpon du sbrang rgya ra legs gzigs⁽⁶²⁾ bskos/ 'og dpon sang⁽⁶³⁾ shi bskos nas pho nya ba'i bang chen sum cu⁽⁶⁴⁾ mar btang/ btsan pos⁽⁶⁵⁾ chos [E175] mi byar mi rung bar [A19] gros mol bar rje 'bangs chad byas so⁽⁶⁶⁾ / dus der rgya rje'i bum sangs na⁽⁶⁷⁾ ju zhag mkhas pa gcig⁽⁶⁸⁾ na re/⁽⁶⁹⁾ da ste zla ba drug dang zhag drug na nub phyogs nas rgya rje⁽⁷⁰⁾ la pho nya ba byang chub sems dpa'i sprul pa [B21] gnyis 'ong zer/ de cis⁽⁷¹⁾ shes dris pas/⁽⁷²⁾ nga'i ju zhag⁽⁷³⁾ gi rtsis las⁽⁷⁴⁾ byung ste/ de'i rtags⁽⁷⁵⁾ dang sha tshugs 'di 'dra 'ong zer nas⁽⁷⁶⁾ 'bag gnyis bris/ de rgya rje'i⁽⁷⁷⁾ [C17] snyan du gsol bas⁽⁷⁸⁾/⁽⁷⁹⁾ de gnyis la rim gro cher bskyed⁽⁸⁰⁾ la/⁽⁸¹⁾ nga'i drung du thong cig par lung byung/ phyis dus btab pa'i dus⁽⁸²⁾/⁽⁸³⁾ pho nya ba sum cu⁽⁸⁴⁾ byung bas⁽⁸⁵⁾/ 'bag dang 'og⁽⁸⁶⁾ dpon dang spyang pa⁽⁸⁷⁾ mthun pas⁽⁸⁸⁾ dar gyi lding khang byas/ shing rta la bskyon⁽⁸⁹⁾ rim gro bskyed nas keng shir⁽⁹⁰⁾ phyin pas/ pho nya ba⁽⁹¹⁾ gzhan yar la chags⁽⁹²⁾ pho nya ba nmams kyis⁽⁹³⁾ rgya rje la phyag byas⁽⁹⁴⁾/ rgya la pho nya byang chub sems dpa'i sprul pa gnyis byung bar⁽⁹⁵⁾ grags pas/ ming kyang dar khang dar khang⁽⁹⁶⁾ zhes zer/ hA⁽⁹⁷⁾ shang dang dad pa can sprin bzhin du 'dus/⁽⁹⁸⁾ khang pa dang rtsig ngos dang⁽⁹⁹⁾ ka ba dang nam mkha' thams cad dar gyis bkab/⁽¹⁰⁰⁾ spos⁽¹⁰¹⁾ dang rol mos mchod cing ci dgar⁽¹⁰²⁾ spyod du bcug /rgya rje na re⁽¹⁰³⁾ gsal snang la mi khyod las nga'i thugs su byon pa ni ma byung na/ rgya'i ju zhag⁽¹⁰⁴⁾ mkhan na re'ang/⁽¹⁰⁵⁾ byang chub sems dpa'i⁽¹⁰⁶⁾ pho nya 'ong zer ba'i 'bag kyang khyod 'dra/ khyod byang chub sems dpa'⁽¹⁰⁷⁾ rta skad bya ba'i sprul pa yin no zer/ khyod ci 'dod pa'i bya dga' sbyin no/⁽¹⁰⁸⁾ zhes bka' stsal/ gsal⁽¹⁰⁹⁾ snang na re rje'i zhal mthong ba⁽¹¹⁰⁾ blo⁽¹¹¹⁾ dga' ba'i steng du gzhan dang mi 'dra ba'i bka' lung stsal ba⁽¹¹²⁾ las bya dga' che ba ma mchis na/⁽¹¹³⁾ gzhan ci yang mi 'tshal/ hA⁽¹¹⁴⁾ shang gcig la sgom⁽¹¹⁵⁾ lung len pa'i ched du sprod par ci gngang mchi ba dang/ de⁽¹¹⁶⁾ rgya rje⁽¹¹⁷⁾ gngang ste⁽¹¹⁸⁾ pho nya myur ba cig rgya rje'i gor bu la skyon nas btang ba dang/⁽¹¹⁹⁾ eg bcu'i nyi ma hA shang⁽¹²⁰⁾ gcig⁽¹²¹⁾ bkug nas/ gsal⁽¹²²⁾ snang gis [A20] sgom lung blangs nas [B22] bsgoms⁽¹²³⁾ pa'i dus su/ gsal⁽¹²⁴⁾ snang la bya dgar⁽¹²⁵⁾ rgya'i⁽¹²⁶⁾ byi'u gser shog⁽¹²⁷⁾ srang brgya pa gcig⁽¹²⁸⁾ mu tig sran ma tsam pa phreng [E176] bcu/ dar yug lnga brgya/ za 'og pe tse han⁽¹²⁹⁾ yug gcig /gzhan bas⁽¹³⁰⁾ khyad par du gngang/ bod kyi btsan po'i bka' sgrom dang bstun par chad byas/ btsan po la skyes dar yug khri⁽¹³¹⁾ phra⁽¹³²⁾ men gyi zhwa gcig⁽¹³³⁾ /zla gor zho sha⁽¹³⁴⁾ i sder

'dom gang ba⁽¹³⁵⁾ gcig⁽¹³⁶⁾ bskur/ pho nya gzhan rnam la'ang⁽¹³⁷⁾ bya dga' che⁽¹³⁸⁾ thang du gnang nas/⁽¹³⁹⁾
 pho nya'i⁽¹⁴⁰⁾ lan dang bcas⁽¹⁴¹⁾ nas slar bod yul du mchis te/ btsan po'i spyang sngar skyes phul⁽¹⁴²⁾ 【C18】
 nas sug las grub^{(143)/(144)} btsan pos kyang thabs kyis zhang blon rnam dang chos bya ba ni chad/ a
 tsar+ya⁽¹⁴⁵⁾ ni spyang ma 'drons par⁽¹⁴⁶⁾ gda'/ gsal snang yul du mchis pa dang⁽¹⁴⁷⁾ btsan po na re⁽¹⁴⁸⁾
 khyod kyis a tsar+ya⁽¹⁴⁹⁾ spyang drongs shig⁽¹⁵⁰⁾ ces bka' stsal/ gsal⁽¹⁵¹⁾ snang gis⁽¹⁵²⁾ mang yul⁽¹⁵³⁾ du
 phyin tsa⁽¹⁵⁴⁾ na b+ho b+hi satwas/⁽¹⁵⁵⁾ 'dzam bu⁽¹⁵⁶⁾ gling na mthu che ba'i dge slong pad+ma
 sam+b+hawa⁽¹⁵⁷⁾ dang/ lha khang rtsig⁽¹⁵⁸⁾ pa'i phywa⁽¹⁵⁹⁾ mkhan dang/⁽¹⁶⁰⁾ gsum bsdongs⁽¹⁶¹⁾ nas 'dug
 /der mang yul nas rdzing bcas nas chu klung⁽¹⁶²⁾ la spyang drangs te/ snye mo thod dkar du byon pa dang/
 pad+ma saM b+ha wa⁽¹⁶³⁾'i zhal nas sang ni chu phar kha⁽¹⁶⁴⁾ na nyi⁽¹⁶⁵⁾ tshe ba'i dmyal ba yod pa la⁽¹⁶⁶⁾
 snying rje bya'o⁽¹⁶⁷⁾ gsungs⁽¹⁶⁸⁾ nas/ rdzings⁽¹⁶⁹⁾ chu la bskur nas/⁽¹⁷⁰⁾ 'o yug du gtor ma btang dgongs pa
 mdzad pas chab 'jam tsam du gyur/ sang shi ku⁽¹⁷¹⁾ la la byon nas/⁽¹⁷²⁾ byang snam⁽¹⁷³⁾ du zangs khal
 tshad ma gcig⁽¹⁷⁴⁾ du bong bu'i⁽¹⁷⁵⁾ sha btsos⁽¹⁷⁶⁾ pa dang/ klu tshangs pa bya ba'i mi gcig⁽¹⁷⁷⁾ na re/⁽¹⁷⁸⁾
 gnod sbyin 'dul ba'i thabs blta⁽¹⁷⁹⁾ ba dang/ slob dpon pad+mas⁽¹⁸⁰⁾ gnod sbyin chen po⁽¹⁸¹⁾ la⁽¹⁸²⁾ dmar
 thab stsal gsungs⁽¹⁸³⁾ 【B23】 nas/ zangs la rdog⁽¹⁸⁴⁾ pa brgyab⁽¹⁸⁵⁾ pas⁽¹⁸⁶⁾ thang lha khros⁽¹⁸⁷⁾ pas gangs la
 thug chom⁽¹⁸⁸⁾ byung/⁽¹⁸⁹⁾ sprin nag⁽¹⁹⁰⁾ chags nas 'brug dang glog 【A21】 dang ser ba babs⁽¹⁹¹⁾/ de nas gal ta
⁽¹⁹²⁾ la thog la snying drung du byon nas⁽¹⁹³⁾ bod chos byed ma ster ba'i⁽¹⁹⁴⁾ klu dkar po mi srin pa gcig
⁽¹⁹⁵⁾ yod/⁽¹⁹⁶⁾ de dam 'og du⁽¹⁹⁷⁾ gzhug⁽¹⁹⁸⁾ la gdul⁽¹⁹⁹⁾ dgos gsungs pa⁽²⁰⁰⁾ dang/ klu de phyi'i rgya mtshor
 bshor⁽²⁰¹⁾ / de gzung⁽²⁰²⁾ la dam 'og tu gzhug gsungs nas/ dkyil 'khor lnga⁽²⁰³⁾ bzhengs nas zhag gsum⁽²⁰⁴⁾
 dgongs pa mdzad pas⁽²⁰⁵⁾ / gangs kyis thug chom⁽²⁰⁶⁾ zhi⁽²⁰⁷⁾ yul kyang⁽²⁰⁸⁾ 'jam par gyur^{(209)/(210)} klu'ang⁽²¹¹⁾
 dam la thogs/ thang lhas⁽²¹²⁾ bka' nyan du khas blangs/ slob dpon gyi 'khor tho yul du byon na zan drang
 bar⁽²¹³⁾ byas^{(214)/(215)} la ma le 【E177】 bshor⁽²¹⁶⁾ byon pas/⁽²¹⁷⁾ 'phan yul yul ngan rta ro kha phyé⁽²¹⁸⁾ ba 'dra
 bar mi 'byon⁽²¹⁹⁾ gsungs⁽²²⁰⁾ nas/⁽²²¹⁾ stod lung spa ral na⁽²²²⁾ mar byon⁽²²³⁾ btsun⁽²²⁴⁾ mo 'phrang⁽²²⁵⁾ gi
 brag a tsar+ya 'gro 'phro la rengs pa⁽²²⁶⁾ 'dra ba 'di'i gong⁽²²⁷⁾ ma bcad na bod mu stegs kyis 'gengs
 gsungs⁽²²⁸⁾ 【C19】 nas gzhang par gro thob⁽²²⁹⁾ gsungs⁽²³⁰⁾ pa la chu ma mchis⁽²³¹⁾ pas/⁽²³²⁾ chab ngas byung
 gsungs⁽²³³⁾ nas⁽²³⁴⁾ / gseg⁽²³⁵⁾ shang yu ba sa la thams thams⁽²³⁶⁾ brgyab⁽²³⁷⁾ pas chu rka bcu⁽²³⁸⁾ byung/ de
 la gzhang⁽²³⁹⁾ pa'i lha chur grags/ de nas snye thang⁽²⁴⁰⁾ du nga'i 'gro ran gsungs⁽²⁴¹⁾ pa dang/ mkhar⁽²⁴²⁾
 nag gi mtsho 'di⁽²⁴³⁾ la klu btsan drag mo⁽²⁴⁴⁾ 'dug 'di 'dul⁽²⁴⁵⁾ lo gsungs/⁽²⁴⁶⁾ 'di shin tu mthu⁽²⁴⁷⁾ ba gcig
 'dug/⁽²⁴⁸⁾ 'di la 'dul byed cig bya gsungs⁽²⁴⁹⁾ nas brag la bcom ldan sems dpa'i sku gcig⁽²⁵⁰⁾ mdzad/ bal po
 rdo mkhan⁽²⁵¹⁾ na re⁽²⁵²⁾ bod kyis rdo la bzo btub sam⁽²⁵³⁾ blta⁽²⁵⁴⁾ mchis nas/⁽²⁵⁵⁾ brag la sha ba'i⁽²⁵⁶⁾ gzugs
 gcig brkos⁽²⁵⁷⁾ so/ de nas ngam shod⁽²⁵⁸⁾ la byon nas zur mkhar 'phrang⁽²⁵⁹⁾ la rdo'i 【B24】 mchod rten lnga
 mdzad nas/⁽²⁶⁰⁾ pho brang du byon nas...

文献略号

BM: *tun hong nas thon pa'i bod kyis lo rgyud yig cha* (王尧陈践译注『敦煌本吐蕃历史文书(增订本)』, 民族出版社, 1992, pp.29-33)

DTC: *dung dkar blo bzang 'phrin las, dung dkar tshig mdzod chen mo, krung go'i bod rig pa dpe skrun khang* (東嘎洛桑赤列『東嘎藏学大辞典』中国藏学出版社), 2002.

- MDz: ko zhul grags pa 'byung gnas, rgyal ba blo bzang mkhas grub, *gangs can mkhas grub rim byon ming MDzod*, kan su'u mi rigs dpe skrun khang (郭須・扎巴军乃, 嘉娃・罗桑开珠编『雪域历代名人辞典』甘肃民族出版社), 1992.
- KhDC: (『デウ宗教史』) : mkhas pa lde'u (lde'u jo sras), *mkhas pa lde'us MDzad pa'i rgya bod kyi chos 'byung rgyas pa*, bod rang skyong ljongs spyi tshogs tshan rig khang bod yig dpe snying dpe skrun khang (ed.), bod ljongs mi dmangs dpe skrun khang (弟吴贤者著『弟吴宗教源流』西藏自治区社会科学院西藏古籍出版社编, 西藏人民出版社), 1987.
- KhG: (『賢者喜宴』) : dpa' bo gtsug lag phreng ba, *chos 'byung mkhas pa'i dga' ston (stod cha)*, wA Na badzra bidyA dpe mdzod khang (Vajra Vidya Institute, Sarnath, Varanasi, India), 2003.
- ML: sa skya bsod nams rgyal mtshan, *rgyal rabs gsal ba'i me long*, mi rigs dpe skrun khang (萨迦・索南坚赞『西藏王统记』民族出版社), 1981.
- PCh: (『プトゥン宗教史』) : bu ston rin chen grub, rdo rje rgyal po (ed.), *bu ston chos 'byung gsung rab rin po che'i mdzod [bde bar gshegs pa'i bstan pa'i gsal byed chos kyi 'byung gnas gsung rab rin po che'i mdzod]*, krung go'i bod kyi shes rig dpe skrun khang (布頓仁欽竹著, 多吉杰博編『布頓佛教史』中國藏學出版), 1988.
- PG: (『西藏王臣記』) : rgyal dbang lnga pa chen mo, *bod kyi deb ther dpyid kyi rgyal mo'i glu dbyangs*, mi rigs dpe skrun khang, 1991[1957] (第五世達賴喇嘛著『西藏王臣記』民族出版社, 1991[1957])
- PKT: *padma bka' thang (u rgyan gu ru padma 'byung gnas kyi skyes rabs rnam par thar pa rgyas par bkod pa zhes bya ba bzhugs so)*, si khron mi rigs dpe skrun khang, (『蓮花遺教』四川民族出版社) 1993 [1987]
- PT: *tun hong nas thon pa'i bod kyi lo rgyud yig cha* (王尧陈践译注『敦煌本吐蕃历史文书(增订本)』, 民族出版社), 1992, pp.12-29)

註

- (1) これまでに「バシエ訳註(1) —マシャン・ドムパキエの失脚—」(『四天王寺大学紀要』平成22年度50号, 429-462頁), 及び「『バシエ』訳註(2) —忿怒する魔鬼—」(同大学同紀要平成23年度51号, 421-430頁)を發表した。
- (2) その成果の一部として, 拙稿「神の国, 人の国—古代チベットにおける仏教導入の物語」, 『宗教史とは何か(上)』(LITHON, 2008年, pp.305-345)がある。
- (3) ソクドクパ・ロドゥ・ギェルツェン [sog zlog pa blo gros rgyal mtshan, 1552-1624] は, 『バシエ』をパドマサンバヴァに傾倒した大臣による偽作とみている (sog zlog pa blo gros rgyal mtshan, dgag lan nges don 'brug sgra, si khron mi rigs dpe skrun khang, 1997, p.12)。
- (4) George N. Roerich, *The Blue Annals*, Motilal Banarsidass, 1988 [1949], I-v.
- (5) ラチェン・ゴンパ・ラブセルの経歴については [MDz1147-1149, DTC1506-1507] 参照。
- (6) dung dkar blo bzang 'phrin las, dung dkar tshig mdzod chen mo (东噶・洛桑赤列編纂『东噶藏学大辞典』中国藏学出版社)(以下, DTC), 2002, pp.1574-1575参照。

- (7) [chos kyi spyang sa] [A18.1, B20.14-15, D101.18], [chos kyi sa] [C16.15], [chos kyi spyang pa] [E174.21, KhG317.14], [chos kyi spyang dbang] [F249:3]。仏教に関する職位を指すと思われるが詳細不明。
- (8) [bla nas dgongs pa bzhin] [D101.18-19] 及び [dgongs pa bzhin du] [F248.24] により訳文を補った。[KhG317.11] では「上からの御意向を果たせば」[bla nas dgongs pa 'grub na] とする。
- (9) [bu la] [A18.14, B20.16, C16.16, E174.22]。ここではバ・セーナン自身のことを指していると思われる。『バシエ』[A9.1, B9.20] に依れば、バ・セーナンはこれよりも先に息子と娘を同時に失ったとされるが、ここに言われる男子 [bu] が文字通りバ・セーナンの子を指すのであれば、彼には複数の息子がいたということになる(拙稿・前掲「バシエ訳註(1)」451頁参照)。尚、D・Fは [bu la] を欠き、また [KhG317.11] では「(贊普は) 上からのご意向を果たせば大銀をすぐに大男子(大弟子) [bu chen po] に授けることを保証した」[bla nas dgongs pa 'grub na dngul chen po bla thabs su bu chen po la stsal (原文'tshal) bar gtsigs bcas] としている。
- (10) [dngul chen po] [A18.14, B20.16, D101.20, E174.22, F248.24-249.1]; [dngul chen] [C16.16]。ここに言われる「大銀」は古代チベットにおいて王国に対する貢献度に即して大臣に下賜された位階記 [yig tshang(s)] (或いは六位階記 [yig tshang(s) drug]) の一つを指すと思われる。『賢者喜宴』[KhG190.15-17] に依れば、位階記とは「最上 [rab] は金 [字] [gser]・トルコ石 [の字] [g.yu] の二つ、中 ['bring] は銀 [字] [dngul] とオパール [の字] [phra men], 下 [tha ma] は銅 [字] [zangs yig]・鉄 [字] [lcags yig] [で記されたもの] であり、これら6つすべてがそれぞれ大・小の二つに区別されることによって12 [に分かれるの] である」とされる。即ち、上位から順にトルコ石 [g.yu]・金 [gser]・銀 [dngul]・オパール [phra men]・銅 [zangs]・鉄 [lcags] という6つの位を設け、それぞれの位階に大 [che]・小 [chung] の二つを区別することによって12の位階を定めたものを言うのである。恐らく上記の6種の宝石・金属の粉汁によって大小の文字を記した位階記が家臣に下賜されたのであろう。この位階については『デウ宗教史』[KhDC266-267] 及び [DTC1853] にも概説が見られる。
- (11) ケー [khad] の長 [dpon] の意。史料によって綴りの違い著しく、[D101.23] で [kha dpon], [KhDC317.13, 185.13] は [khang dpon] 或いは [khos dpon] 等している。トゥンカル・ロサンティンレーは [khang dpon] をソンツェン・ガムポ王時代に区分された行政区の担当官を指す‘クーブン’ [khod dpon] の誤記と判断しており [DTC296]、これが [khod dpon] の誤記ないし異体である可能性は高い。‘クー’ [khod] は古代チベットで用いられた行政区分法の一つであり、『デウ宗教史』[KhDC270.9-11] には‘6つのクー’ [khod drug] として、中央チベット [bod]・シャンシュン [zhang chung]・スムパ [sum pa]・(欠損)・チブ [chibs]・トンキャブ [mthong khyab] の名が挙げられている。また『賢者喜宴』[KhG185.12-16] に依れば、これら6つの地域を担当した官吏が‘クーの長’ [khos dpon] であり、「中央チベットのクーブンにはガル・トンツェン・ユルスン [mgar stong btsan yul bzung], シャンシュンのクーブンにはキュンポ・ブンズンチェ [khyung po bun zung ce], スムパのクーブンにはホルチャシュリンポ [hor bya zhu ring po], チブのクーブンにはワ

- ンツェン・サンペルレク [dbang btsan bzang dpal legs], トンキャブのクーポンにはチョコクロ・ギェルツェン・ヤンゴン [cog ro rgyal mtshan g.yang gong] などが就任した」とされる。
- (12) ティソン・デツェン王治下で軍務に従事した人物であり、これよりも先にシャーンタラクシタをチベットへ招聘するためにマンユルへ派遣された使節団の一員であったとされる(拙稿・前掲「バシエ訳註(1)」pp.443-444参照)。この人物の名前は史料によって綴りに相違があり、[A18.15, B20.17, E174.23]では[sprang rgya ra legs gzigs], [C16.17]では[sbrang rgya ra legs gzigs]としている。また[F249.2, KhG 317.13-14]は[sbran gtsang gzher], [F249.2]は[sbrang gtsang bzher], [D101.23-24]は[sbrang gtsang bzhed]という名を挙げるが、これがスプラン・ギャラ・レクシーの異名であるか、或いは別人であるか否かは不明である。尚[MDz:1263-1264]は[sbrang rgyal sgra legs gzigs]と[sbrang gtsang bzher]という二人の人物の名を挙げている。
- (13) 職名と思われるが詳細不明。
- (14) ティソン・デツェン王治下に於いて仏教導入に尽力したとされる人物であり、『バシエ』に「…中国皇帝は[チベット]王に大禮物を授ける[ための]使者[である]バー・デウ[ba' de'u]の子[である]ガルケン[という]中国の子供を、王子[=ティソン・デツェン王]の遊び相手として呈上した」[A4.11-5.10, B5.2-6.4]とあり、更に「中国の子[である]ガルケン・サンシ」[rgya phrug gar mkhan sang shi] [A5.7, B5.21]という記述が見えることから、中国出身の人物と推測される。トゥンカル・ロサンティンレーも彼を「唐の大臣[であった]バー・デウの子、サンシ」と呼んでいる(dung dkar blo bzang 'phrin las, bod kyi chos srid zung 'brel skor bshad pa, mi rigs dpe skrun khang〈東嘎・洛桑赤列著『论西藏政教合一制度』民族出版社, 1981, p.23)。
- (15) 『バシエ』の記述のみに従えば、これは唐への二度目の使節団の派遣であり、一度目はティデ・ツクツェン[btsan po khri lde gtsug btsan]王治下において実施された(拙稿・前掲「バシエ訳註(1)」pp.443-444参照)。一度目の派遣の際にもサンシが同行したとされるが、一度目の派遣の時期については『バシエ』に記述がなく、プトゥンも「その者[=ティソン・デツェン]が幼い時に」[PCh:184.3-4]とだけ記しているが、トゥンカル・ロサンティンレーはティデ・ツクツェン王が使者を派遣したのは754年頃のことと推測している(dung dkar blo bzang 'phrin las, bod kyi chos srid zung 'brel skor bshad pa, op. cit., p.23)。
- (16) この一文, [D101.22-23, KhG317.12-13]は「贊普が[仏]法を[実践]なさるということを全ての尚論たちに巧くお話になるということが王と臣下[の間]で決まった[=同意された]」[btsan pos (ni) chos mdzad par zhang blon mtha' dag la thabs kyis bka' stsal bar rje 'bangs chad byas], [F249.1-2]は「贊普は尚論たちにも[自分が仏]法を[実践]なさることを巧く相談した後」[btsan po(s) zhang blon rnams la yang chos mdzad par thabs kyis mol nas], [F174.24-175.1]は「贊普が[仏]法を行わないのは不適切であると仰せになった後、王と臣下[の間]で決まった[=同意された]」[btsan pos chos mi byar mi rung bar gsol nas rje 'bangs chad byas so]としている。何れの史料からもティソン・デツェン王が仏教導入にあたり尚論(古代チベット王国に於ける外戚系大臣たち)を中心とする廃仏派勢力との協議を重視していたことが知れる。尚論については拙稿「バシエ訳註(1)」434頁、註19を参照。

- (17) ギャ [rgya] の主 [rje] の意。[rgya] は中国 [rgya nag] とインド [rgya gar] の何れの省略形としても用いられるが、『バシエ』では [rgya] が単独で現れる場合は中国(唐)を指し、インドを指す場合は [rgya gar] と記されることが多い。ここでは唐第6代皇帝・玄宗(685-762, r.712-756)を指すと思われる。
- (18) ブムサン [bum sangs] はおそらく地域名であり、ブムサン・ワンポはその地域の支配者 [dbang po] 指すと思われる。この一文、[D102.2-3, KhG317.15-17] では「…中国の使者 [である] ブムサン・ワンポの御前にジュの縄を行う賢者で、毎日のようにジュの縄で計算をする [=占いを行う] 者が居た。その者が [ブムサン・] ワンポに [次のように] 申し上げた。」[rgya'i pho nya bum sangs dbang po'i drung na ju zhag mkhan mkhas pa nyin bzhin ju zhag brtsi ba zhig mchis pa des dbang po la gsol ba], また [E175.2-3] では「…その時、中国皇帝の [臣下であった] ブムサン・ワンポの御前に [居た] ジュ [の縄] を良く知る者が言うには」[dus der rgya rje'i bum sangs dbang po'i drung na ju yag mkhas pa gcig na re] としており、ブムサン・ワンポなる人物が中国皇帝に仕えていたと記している。
- (19) ジュの縄索に精通する者 [ju zhag mkhas pa] とは、数珠・糸・小石などを用いて占いを行う占い師を指すと思われる。トゥンカル・ロサンティンレーはこの「ジュの縄索に精通する者」を、中国に滞在していたボン教徒と推測している (dung dkar blo bzang 'phrin las, dung dkar tshig mdzod chen mo, op.cit, p.874)。尚、「ジュの縄索」については、18世紀に活躍したチベット僧トゥカン・チューキニマ [thu'u bkwan chos kyi nyi ma, 1731-1802] が著した宗義書『一切宗義』[thu'u bkwan gru mtha'] の中で、吐蕃王国第8代王ディグム・ツェンポの時代にカシミール・ギルギット・シャンシュンから三人のボン教徒がチベットへ招かれ、その中の一人がジュティ [ju tig] と呼ばれる紐を用いて占いを行ったと述べており (拙稿「聖伝の素描—ボン教の聖者シェンラブ・ミボの降臨から子息の誕生まで」『国立民族学博物館研究報告書』33巻4号, 2009, 667頁)、関連が注目される。
- (20) 『バシエ』に依れば、この「ジュの縄索に精通する者」は、ティデ・ツクツェンが經典を得るために使者を唐へ派遣した際にも、占いを通じて感得した似像をブムサン・ワンポに示したとされる (拙稿・前掲「バシエ訳註(1)」444頁参照)。
- (21) [D102.8-9] [dbang pos kyang rgya rje'i spyang sngar pho nya btang te'] により訳文を補う。[KhG317.20] では「[ブムサン・] ワンポは中国皇帝に使者を送って」[dbang pos rgya rje la pho nya btang ste] とする。
- (22) リムド [rim gro] には、災いを払う浄化の儀式 (或いは安寧祈願の儀式) を意味する場合と、恭敬をもって高僧などに仕え、その衣食住の世話をすることを意味する場合がある。ここでは後者の意味、即ち、中国皇帝がチベットからやってきた使者を手厚くもてなすように指示したことを意味していると思われる。[F249.17-18] には「[中国皇帝は] “チベットのその二人の使者がやってきたら恭しく供養したうえで [私の前に] 出しなさい” と命令して…」[bod kyi pho nya de gnyis 'ongs na bsnyen bkur skyed la thong shig ces bka' stsal pa dang] ともある。
- (23) この一文、[KhG:317.29-318.2] では「チェンパとオクプンは [ジュの縄索に精通する者が] 描いた仮面と一致した。そして絹の住居に入れられてリムドと礼節が尽くされて、[その後]

馬に乗った。他の使者たちも馬に乗ってケンシに行った時…」〔spyan pa dang 'og dpon 'bag bris pa dang mthun nas dag gyi lding khang du bcug nas rim gro dan phu dud bskyed de shing rta la bskyon/ pho nya gzhan nam rta la bskyon nas keng (原文keg) shir phyin pa'i tshe〕とする。

- (24) この地名は、〔nye shing〕〔A19.6, B21.6〕, 〔ke shing〕〔C17.4〕, 〔ke shi〕〔E175.9〕, 〔keg shi〕〔D102.16, KhG318.5〕等、史料によって綴りに相違があるが、これは恐らく京師の音写であり、即ち長安を指すと思われる。敦煌文書BM8212.111にも〔keng shi〕及び〔ke shi〕という地名が見える。尚、〔F249.23〕ではこれを〔eg chu〕〔F249.23〕とするが、これは現在の中国・四川省の省都・成都の古名である(後掲註27、及び拙稿「バシエ訳註(1)」445頁、註91参照)。
- (25) 〔D102.15-16, KhG318.2〕の記述〔rta la bskyon〕により訳文を補う。尚〔D102.15-16〕では「ケーブンと大部分の使者たちは馬に乗ってケンシへ行った」〔khad dpon dang pho nya phal ni rta la bskyon de keg shir phyin〕としており、スプラン・ギャラ・レクシーは馬に乗らなかったとしている。
- (26) 〔hA shang〕及び〔ha shang〕は「和尚」(he shang)の音写であり、『西藏王臣記』に「和尚〔hwa shang〕とは中国の法を説く阿闍梨〔rgya'i chos stong pa'i slob dpon〕であり…」〔PG:54.17-18〕と言われるように中国出身の仏教僧を指す。
- (27) 〔eg bcu〕〔A19.16, B21.20〕, 〔eg cu〕〔C17.17, D103.8〕, 〔eg chu〕〔E175.22, F249.23, KhG318.15〕。現在の中国・四川省の省都・成都の古名を指すと思われる。
- (28) 〔nyi ma hA shang〕〔A19.16〕, 〔nyi ma ha shang〕〔B21.20-21〕。他の版ではキム和尚(〔kim hA shang〕〔C17.17〕, 〔kim hwa shang〕〔D175.22〕, 〔gyim hwa shang〕〔F249.24〕。〔D103.8, KhG318.16〕はただ〔hwa shang〕)と呼ばれる。『バシエ』によれば、嘗てティデ・ツクツェンによって唐に派遣された際、サンシは道中でこの和尚と出会って瞑想法を学び、『十善経』〔dge ba bcu'i mdo〕・『金剛経』〔rdo rje gcod pa〕・『稲竿〔経〕』〔sa lu ljang pa〕を授かったとされる(拙稿・前掲「バシエ訳註(1)」445-446頁参照)。キム和尚と当時のチベットとの関係については、Matthew T. Kapstein, *From Korea to Tibet: Action At a Distance in the Early Medieval World System*, in: *The Tibetan assimilation of Buddhism : conversion, contestation, and memory*, Oxford University Press, 2000, pp.69-84参照。
- (29) 〔za 'og pe tse han〕〔A20.2, B22.3, C17.20〕, 〔za 'og pe tse tan〕〔E176.1〕, 〔za 'ug be'u chen〕〔F251.23-24〕, 〔za'u ga 'be'u sen tsam hwan〕〔C103.12〕, 〔za 'og be'u tse hwan〕〔KhG318.19〕。不明。
- (30) 〔zla gor zho sha'i sder〕不明。〔zla gor zho sha〕はチベット医学で重視される四種の薬果の一つである。
- (31) 〔D103.21-22〕〔sug las grub bo ces gsol〕, 〔KhG319.3〕〔sug las grub po zhes gsol lo〕により訳文を補う。
- (32) バ・セーナンはこれよりも前にシャーンタラクシタをチベットへ招いているが、一度失敗に終わっている。『バシエ』によれば、シャーンタラクシタがルンツブ宮殿〔pho brang rlung 'tshubs〕で、カシミールのアーナンタ〔kha che a nan ta〕が通訳をして、十善〔dge ba bcu〕と十八界〔khams bco brgyad〕と十二支縁起〔rten 'brel bcu gnyis〕について説法を始めると、

チベットに洪水・落雷・疫病・凶作の被害が生じた。そして、これらの被害は仏教を行ったことによるものであるとの批判を受けて、シャーンタラクシタはひとたびチベットを去ったとされる(拙稿・前掲『バシエ』訳註(2)参照。)

- (33) [E176.9, KhG322.17] ではネパール [bal yul] とする。マンユル [mang yul] は現在のチベット自治区・ガリ(阿里) [mnga' ris] 地方のプレン(普蘭) [spu hreng] 県からツァン(藏) [gtsang] 地方のンガムリン(昂仁) 県と吉隆(キロン) 県一帯と、ネパール・カトマンドゥ盆地の北方に位置するトリスリ(Trisuli) の間に位置する地域の古名。「ガリの三地域」 [mnga' ris skor gsum] と呼び慣わされる西チベットの三地域の一つでもあり、古代チベット王国崩壊後は、10世紀に西チベットに落ち延びた王家の末裔キーデ・ニマグン [skyid lde nyi ma mgon] の長子ペーデ・リクパグン [dpal lde rig pa mgon] に統治されたとされる。嘗てマンユルは中国やチベットの旅人にとってネパールやインドへの玄関口であり、657年には唐皇帝の使者がこの地に立ち寄った際、碑文を残したともされる(Pasang Wangdu, H. Diemberger, Ngag Dbang Skal Ldan Rgya Mtsho: Shel Dkar Chos 'byung. History of the White Crystal. Veröffentlichungen Zur Sozialanthropologie, Austrian Academy of Sciences Press, 1996, pp.56-63)。また代表的なパドマサンバヴァ伝である『蓮華遺教』 [padma bka' thang] に依れば、パドマサンバヴァはチベットに向かう途中、「マンユルのグンタンに三ヵ月滞在なされた」 [PKT360.15-16] とされる。
- (34) 寺院の建立に際し土地の良し悪し等さまざまな吉兆を占う占い師を指す。チベット初の本格的仏教僧院であるサムイェ寺建立の際にもこの人物が土地の選定に関わったとされる。
- (35) パドマサンバヴァがチベットへ招聘される経緯については資料によって相違が少なくない。『蓮華遺教』 [PKT356.5-358.5] に記されるパドマサンバヴァ招聘の経緯を示せば以下の通りである。ティソン・デツェン王はヤリゴンの洞窟 [g.yar ri gong gi brag] に住していたパドマサンバヴァをチベットに招聘するために、バミ・ティシエル [sba mi khri gzher], ドルジェ・ドウジョム [rdo rje bdud 'joms], チム氏の子・シャキヤブラヴァ [mchims kyi phru gu shAkya pra bha], シューブ・ペルギ・センゲ [shud pu dpal gyi seng ge] の四名に黄金を渡してインドへ向かった。使者たちはティソン・デツェンが建立しようとしている経堂の建設が神と鬼が妨害しているため、土地の地鎮・加持・浄めと仏教の守護のためにパドマサンバヴァをチベットに招きたいと申し入れた。パドマサンバヴァはこれを受け入れた。そして戊戌の年の四季孟仲季十二月 [sa pho rta lo dgun zla 'brin po] の十五日昴宿星の日 [bco lnga skar ma smin drug] にインドを出発し、同月の晦日にネパールに到着した。その後、パドマサンバヴァはネパールに三ヵ月滞在して、ヴァシダラ [ba su dha ra] などのネパール人に教法を説いたのち、アスラ [a su ra] とヤンレシュー [yang le shod] などの洞窟、シンクン [shing khun] などの経堂 [gtsug lag khang], サツェン [sa btsan] 洞窟などに經典を埋藏した。その後、夏の第二月(四季孟仲季五月)の朔日 [dbyar zla ra ba'i tshes gcig] にネパールを発とうとした時、「インドとネパールの植物の先端がチベット [の方角] を指し、全ての花がチベット [の方角] を向いて開花した」 [PKT358.4-5] とされる。『蓮華遺教』 に記されるパドマサンバヴァ伝は神話的な色彩が濃いだが、地名・日時については他の史書の記述と比較する価値のあるものを含んでいる。

- (36) 不明。現在のチベット自治区ラサ市の西方、ヤルルン・ツァンポ河の北方に位置するニェモ（尼木）県との関係も不明。
- (37) [KhG322.22] [gzings las bab ste] により訳文を補う。
- (38) 中央チベット内の地名と思われるが詳細不明。敦煌文書 (PT1288.86) にも [’o yug] という地名が見える。『蓮華遺教』に依れば、パドマサンバヴァはチベットへ向かう際、オユクのデモ [’o yug bre mo] とオユク [の] チェウツァン・ゾンカ [bye’u tshang rdzong ka] という土地に立ち寄り、前者に於いては十二地母 [brtan ma bcu gnyis]・十二守護母 [skiyong ma bcu gnyis]・十二のヤマ [yama bcu gnyis] を、後者に於いてはドルジェ・レクパ [rdo rje legs pa] を調伏したとされる。
- (39) [KhG322.23-323.2] [de nas gnam gyi chu khol du byon nas der snga dro gcig dgongs pa mdzad pas chu yang ’jam tsam red ste rlangs pa chad pa zhag gsum tsam bgyis] により訳文を補う。
- (40) 原文は [zangs khal tshad ma gcig]。詳細不明。
- (41) [D104.15] [phyung nas de’i nang du] により訳文を補う。
- (42) [D104.15] では「牛の死体」[lung bong gi ro] とする。
- (43) [dmar thab]。生き物の血・肉・毛などを燃やして悪臭を生じさせること。
- (44) チベット自治区中東部を東西に走るニェンチェン・タンラ [gnyan chen thang lha] 山脈に宿る神を指す (See René De Nebesky-Wojkowitz, *Oracles and Demons of Tibet-the cult and iconography of the tibetan protective*, Book Faith India, 1996, pp.205-209)。
- (45) [KhG323.2] ではシェチュ [gshe chu] とも呼ばれる。
- (46) ラサ [lha sa] の北部にあるダムスン [dam srung] 近郊に位置した地名と思われる (Keith Downman, *The power-places of Central Tibet: the pilgrim's guide*, Timeless Books, 1988, pp.81, 91, 122, 131)。敦煌文書P.T.1288には658年にガル・トンツェン大臣がニンドゥンのナリン [sny-ing drung gy-i sna rings] を訪れたという記録がある。
- (47) [KhG323.3-4] では「従順ならざる白龍の子」[klu dkar po’i phru gu mi srung pa] とする。
- (48) タンラの調伏物語は『蓮華遺教』[PKT363.16] にも次のような逸話が記されている。パドマサンバヴァがゴウォ・トゥグ [mgo bo gru gu] の国でタンラを調伏しようとする時、タンラは雪に逃れて雪を溶かして抵抗したが、やがてトルコ石の鬘を持つ子供に姿を変えて降参した。彼は白い絹の衣を身につけてパドマサンバヴァに向かって礼拝し、命の心髄を差し出して誓約の下に入った。パドマサンバヴァは彼に埋藏経典を託し、ドルジェ・チョクラプツェル [rdo rje mchog rab rtsal] という秘密の名前をつけたとされる。このように『蓮華遺教』に記されるパドマサンバヴァの調伏物語では異教の神々は最終的に「命の心髄」[srog snying] をパドマサンバヴァに差し出して仏法を守護することを誓い、秘密の名 [gsang mtshan] 前を与えられるという叙述様式が認められる。尚、ここでタンラが「トルコ石の鬘を持つ子供」[byis pa g.yu yi zur phud can] に姿を変えたという逸話は、ボン教の神話に登場する「意の少年」[yid kyi khye’u chung] (「トルコ石の鬘を有する意の少年」[yid kyi khye’u chung g.yu’i zur phud can] とも呼ばれる) の姿を連想させる (拙稿・前掲「聖伝の素描—ボン教の聖者シェンラブ・ミボの降臨から子息の誕生まで」689頁, 737頁 n.51参照)。
- (49) [KhG323.19] の記述 [gzings pas] により訳文を補う。

- (50) [KhG323.22] [gsungs nas bcad] により訳文を補う。
- (51) [E177.5] では「6つの泉」[chu rka bdun] とする。
- (52) この伝説の地は今日のラサ西部のキョルモル近郊に位置する (Keith Dowman, *The power-places of Central Tibet: the pilgrim's guide*, Timeless Books, 1988, pp.134)。
- (53) [KhG324.4-5] では「…岩に世尊・金剛薩埵の御身体を一つ生起した [=観想した] ところ [金剛薩埵が] 自然に生じた」[brag la bcom ldan 'das rdo rje sems dpa'i sku zhig bskyed pas rang byung du byung] とする。
- (54) ヤルルン河の北側, サムイエ南西部の地名。パドマサンバヴァに由来する五つの仏塔で知られ, またツォンカパの直弟子チャンセム・クンガー・サンポ [byang sems kun dga' bzang po] が建立したスルカル・チューデ・ドガリン寺 [zur mkhar chos sde mdo sngags gling] が在したとされる地でもある。尚, 敦煌文書BM8212.105には756年に贊普が滞在した土地としてスンカル [zung kar] という地名も見える。
- (55) sba A18.13; B20.14; C16.15 = rba E174.21
- (56) chos kyi spyang par E174.21 = chos kyi spyang sar A18.13; B20.15; D:101.18, chos kyi sar C16.15, chos kyi spyang dbang F249:3, chos kyi spyang pa KhG317.14
- (57) bskos A18.14; B20.15 = bkos C16.15; D101.18
- (58) pho nyar A18.14; B20.15; C16.16 = phor nya D16.16
- (59) bsgos pa = bsgo ba A18.14; B20.15; C16.16, btang E174.22
- (60) dngul chen po A18.14; B20.16; E174.22 = dngul chen C16.16
- (61) gnang bar = gnas bar A18.15, gnas par B20.16; C16.17, gnang par E174.22
- (62) sbrang rgya ra legs gzigs C16.17 = sprang rgya ra legs gzigs A18.15; B20.17; E174.23, sbrang gtsang gzher F249.2; KhG317.13-14, sbrang gtsang bzher F249.2, sbrang gtsang bzher D101.23-24
- (63) sang A18.16; B20.17; E174.24 = sangs C16.18
- (64) pho nya'i bang chen sum bcu C16.18 = pho nya'i bang chen sum cu A18.16; B20.18, pho nya sum bcu E174.24
- (65) btsan pos E174.24 = btsan po A18.16; B20.18; C16.19
- (66) gros mol bar rje 'bangs chad byas so A19.1; B20.19; C16.19-20 = gsol nas rje 'bangs chad byas so E174.24-175.1
- (67) bum sangs na A19.1; B20.20; C16.21 = bum sangs dbang po'i drung na E175.2
- (68) ju zhag mkhas pa gcig A19.1; B20.20 = ju bzhag mkhas pa gcig C16.21, ju yag mkhas pa gcig E175.2.
- (69) E175.3では、このshadを欠く。
- (70) rgya rje A19.2; B20.21; C16.22 = rje F175.3
- (71) cis C16.23; E175.4 = ci A19.3, B21.1
- (72) E175.4では、このshadを欠く。
- (73) zhag A19.3; B21.1 = bzhag C16.21, yag E175.4
- (74) las B21.1 = la A19.3, C16.23, E175.5
- (75) rtags B21.2; C16.23 = brtags A19.3

- (76) zer nas A19.4; B21.2; C16.24 = zes E175.5
 (77) rje'i A19.4; B21.3; C16.24 = rjes E175.6
 (78) gsol bas B21.3 = gsol pas C17.1, gson pas A19.4, gsan pas E175.6
 (79) E 175.6では、このshadを欠く。
 (80) bskyed A19.4; B21.3; E175.6 = skyed C17.1
 (81) E 175.6では、このshadを欠く。
 (82) dus A19.5; B20.4; C17.2 = dus su E175.6
 (83) E175.6ではshadを欠く。
 (84) pho nya ba sum cu A19.5; B21.4-5 = pho nya sum cu C17.2, pho nya E175.7
 (85) bas A19.5; B21.5; C17.2 = pas E175.7
 (86) 'og C17.2 = 'go A19.5, B21.5, E175.8
 (87) pa C17.3; E175.8 = sa A19.6, B21.5
 (88) mthun pas B21.5 = mthun bas E175.8, 'thun pas A19.6; C17.3
 (89) bskyon B21.6; E175.9 = skyon A19.6; C17.4
 (90) keng shir E175.9 = nye shing A19.6; B21.6, ke shing C17.4, keg shir D102.16
 (91) ba A19.7; B21.7; C17.4 = pa E175.9
 (92) gzhan yar la chags A19.6; B21.7; C17.4 = gzhan g.yar bcags/ E175.9
 (93) kyis B21.7; E175.10 = kyi A19.7; C17.5
 (94) byas A19.7; B21.7; C17.5 = byas te E175.10
 (95) byung bar A19.8; B21.8; C17.6 = 'byung par E175.11
 (96) khang B21.9; E175.11 = khar A19.8, mkhar C17.6
 (97) hA A19.8 = ha B21.9; C17.6, hwa E175.12
 (98) E175.12では、このshadを欠く。
 (99) E175.12では rtsig ngos dang を欠く。
 (100) C17.8では、このshadを欠く。
 (101) spos A19.9; B21.11; C17.8 = yos E175.13
 (102) dgar A19.10; B21.11; C17.9 = dga' E175.13
 (103) C17.9では、ここにshadを置く。
 (104) zhag A19.11; B21.13 = bzhag C17.10, yag E175.15.
 (105) re'ang/ A19.11; B21.13; C17.10 = re yang E175.15
 (106) dpa'i A19.11; B21.13; E175.15 = dpa' C17.11
 (107) dpa' A19.12; B21.14; E175.16-17 = dpa'i C17.11
 (108) C17.12, E.175.17では、このshadを欠く。
 (109) gsal A19.13; B21.16; C17.13 = gsas E.175.18
 (110) ba A19.13; B21.16; C17.13 = pa E.175.18
 (111) blo A19.13; B21.16 = glo ba C17.13, blo ba E.175.18
 (112) ba A19.14; B21.17, C17.14 = pa E.175.19
 (113) E.175.20では、このshadを欠く。

- (114) hA A19.14; B21.18 = ha C17.15, hwa E175.20
(115) sgom A19.15; B21.18; C17.15= bsgom E.175.20
(116) de B21.19; E175.21 = da A19.15; C17.16
(117) rje A19.15; C17.16 = rjes B21.19; E.175.21
(118) ste A19.15; B21.19; C17.16 = te E.175.21
(119) pho nya myur ba cig rgya rje'i gor bu la bskiyod te btang ba dang = gsal snang nyung 'dus shig la go ru (du) skyon nas btang ba dang A19.15-16; B21.19-20; C17.16-17, gnang chen nyung 'dus shig rgya rje'i go ru la bskyon nas btang bas D103.7-8, snang nyun dus cig la go ru la bskyon nas btang ba dang E175.21-22, pho nya myur ba cig rgya rje'i gor bu la bskiyod te btang ba dang E251.19.
(120) eg bcu'i nyi ma hA shang A19.16 = eg bcu'i nyi ma ha shang B21.21, eg cu'i kim hA shang C17.17; E175.22
(121) gcig A19.16; B21.21; C17.17= cig E.175.22
(122) gsal A19.16; B21.21; C17.18= gsas E.175.23
(123) bsgoms A20.1; B22.1; C17.18 = bsgom E175.23
(124) gsal A20.1; B22.1; C17.18 = gsas E175.23
(125) dgar A20.1; B22.1; C17.19 = dga' E175.24
(126) rgya'i B22.1 = rgya A20.1; C17.19, brgya E175.24
(127) shog C17.19; E175.24 = gshog A20.1; B22.1
(128) gcig A20.2; B22.2; C17.19 = cig E175.24
(129) han A20.2; B22.3; C17.20 = tan E176.1
(130) bas A20.3 = pas B22.3, C17.20, E176.1
(131) E176.3では、ここにshadを置く。
(132) phra A20.4; B22.5; C17.22 = 'phra E176.3
(133) gcig A20.4; B22.5; C17.22 = cig E176.3
(134) zla gor zho sha = la go zho zha A20.4, gla gor zho zha B22.5, gla go zho zha C17.22, zla gor zho sha E176.3
(135) ba B22.5 = pa A20.4; C17.22; E176.4
(136) gcig A20.4; B22.6; C17.22 = cig E176.4
(137) la'ang A20.5; B22.6; C17.23 = la E176.4
(138) che B22.6; E176.4 = phye A20.5; C17.23
(139) E176.5では、このshadを欠く。
(140) nya'i A20.5; B22.7; E176.5 = nyan C17.23
(141) bcas A20.5; B22.7; C17.23 = chas E176.5
(142) phul A20.6; B22.8 = phul pa C17.24, mchis E176.6
(143) grub A20.6; B22.8; C18.1 = 'grub E176.6
(144) 176.6では、このshadを欠く。
(145) tsar+ya A20.7; B22.9; C18.2 = tsa rya E176.7

- (146) spyan ma 'drons par A20.7; B22.9; C18.2 = gdan ma drongs par E176.7
- (147) E176.8ではgsal snang yul du mchis pa dangを欠き, C18.3ではここにshadを置く。
- (148) btsan po na re A20.8; B22.10; C18.3 = btsan po'i zhal nas E176.8。C18.3ではここにshadを置く。
- (149) tsar+ya A20.8; B22.11; C18.3 = tsa rya E176.8
- (150) drongs shig A20.8; B22.11; C18.3 = drong cig E176.8
- (151) gsal A20.8; B22.11; C18.4 = gsas E176.8
- (152) gis B22.11; C18.4; E174.9 = gi A20.8
- (153) mang yul A20.8; B22.11; C18.4 = bal yul E176.9
- (154) tsa A20.8; B22.12; C18.4 = tsam E176.9
- (155) E176.9では、このshadを欠く。
- (156) bu A20.9; B22.12 = bu'i C18.5; E176.9
- (157) sam+b+hawa A20.9 = sam bha wa B22.15; C18.5, sam ba E176.10
- (158) rtsig A20.9; B22.13; E176.10 = rtsegs C18.5
- (159) phywa B22.13; C18.5; E176.10 = phya A20.9
- (160) E176.10では、このshadを欠く。
- (161) gsum bsdongs = gsum rtogs A20.10; B22.13, sa gsum rtog C18.6, gsum stongs E176.11
- (162) rdzing bcas nas chu klung A20.10; B22.14; C18.6-7 = gzings la klung E176.11
- (163) pad+ma saM b+ha wa A20.11 = pad+ma sam b+ha wa B22.15; C18.7, pad ma E176.12
- (164) sang ni chu phar kha A20.11; B22.15-16; C18.8 = sang shi phar ka E176.12-13
- (165) nyi B22.16; E176.13 = nye A20.11, C18.8
- (166) yod pa la A20.11; B22.16; C18.8 = yod pas de la E176.13
- (167) snying rje bya'o A20.12; B22.16 = snying dbye'o C18.8, snying rje bya yis E176.13
- (168) gsungs B22.16; C18.9 = gsung A20.12; E176.13
- (169) rdzings B22.17 = sdzings A20.12, rdzing C18.9, gzings E174.13-14
- (170) E176.14では、このshadを欠く。
- (171) ku A20.13; B22.18; C18.10 = gu E176.15
- (172) E176.15では、このshadを欠く。
- (173) snam A20.13; B22.18; C18.10 = gnam E176.15
- (174) gcig A20.13; B22.19; C18.11 = cig E176.15
- (175) bong bu'i A20.13-14; B22.19; C18.11 = lung bong gi E176.16
- (176) btsos A20.14; B22.19; C18.11 = bcos E176.16
- (177) klu tshangs pa bya ba'i mi gcig = klung tshang bya ba'i mi tshangs gcig A20.14; B22.19-20, klung tshang bya ba'i mi tshang cig C18.11-12, klu tshangs pa bya ba'i mi tshan gcig D:104.13; KhG:323.6, klung tshang bya ba'i mi tshan cig E176.16
- (178) C:18.12, E176.16では、このshadを欠く。
- (179) blta C18.12 = blta' A20.14, B22.20, lta E176.17
- (180) pad+mas A20.15; B22.21; C18.12 = pad ma sam bas E176.17

- (181) po A20.15; B22.21; E176.17= mo C:18.13
(182) E176.17ではlaを欠く。
(183) dmar thab stsal gsung A20.15; B22.21; C18.13 = dmar thab gsung E176.18
(184) rdog C18.13; E176.18 = sdog A20.15, B.23.1
(185) brgyab B23.1; C18.13; E176.18 = rgyab A:20.16
(186) E176.19では、ここにshadを置く。
(187) khros B23.1; C18.14 = 'khros A:20.16, bros E176.18.
(188) btug bcom A20.16; B23.1-2 = btun bcom C18.14, tug choms E176.19.
(189) B23.2, E176.19では、このshadを欠く。
(190) E176.19はnagを欠く。
(191) babs A21.1; B23.2; C18.15 = bab E176.19.
(192) ta A21.1; B23.3; C18.15 = Ita E176.20.
(193) E176.20ではnasの代わりにshadを置く。
(194) byed ma ster ba'i A20.1; B23.3; C18.16 = byed du mi gter ba'i E176.20.
(195) gcig A20.2; B23.4 = cig C18.16; E176.21.
(196) E176.21では、このshadを欠く。
(197) E176.21は以後の文 [gzhug la 'dul dgos gsung pa dang/ klu de phyi'i rgya mtshor bshor/ de
bzung la dam 'og tu] を欠く。
(198) gzhug E176.21 = bcug A21.2; B23.4; C.18.17
(199) gdul = 'dul A21.2; B23.4; C18.17
(200) gsungs pa B23.5 = gsungs ba A21.2; gsung ba C:18.17
(201) rgya mtshor bshor A21.3 = rgya mtshor shor B23.5, rgyab sgor shor C:18.17
(202) gzung = bzung A21.3; B23.5; C.18.18
(203) dkyil 'khor lnga A21.3; B23.6; C18.18 = dkyil 'khor lha lnga E176.21-22
(204) gsum A21.4; B23.6; C18.19 = gsum du E176.22.
(205) E176.22はpas = paとし、後続するshadを省く。
(206) tug bcom A:21.4, btug bcom B23.7, dug bcom C18.19, tug choms E176.22
(207) C:18.19では、ここにshadを置く。
(208) kyang A21.4; B23.7; C18.19 = yang E176.23
(209) gyur A21.4; B23.8; C18.20= gyur nas E176.23
(210) E176.23では、このshadを欠く。
(211) klu'ang A21.4; C18.20 = klu 'ang B23.8; klu E176.23
(212) lhas E176.23 = lha A21.5; B23.8; C18.20
(213) bar A21.6; B23.9; C18.21 = par E176.24
(214) byas A21.6; B23.9; E176.24 = bya C:18.21
(215) C:18.21, E176.24では、このshadを欠く。
(216) la ma le bshor A:21.6; B23.9 = la ma le bsher C:18.21, la ma le sho E176.24-177.1, la la le sho
D105.4, ma le sho KhG:323.18

- (217) E177.1では、このshadを欠く。
- (218) phyé B23.10; C18.22 = che A:21.6, bye E177.1
- (219) 'byon A21.6; B23.10; C18.22 = 'gro E177.1
- (220) gsungs A21.6; B23.10; C18.22 = gsung E177.1
- (221) E177.2では、このshadを欠く。
- (222) stod lung spa ral A:21.7, B23.11 C:18.23 = stod lungs ya ral D105.6, stod lung ya ral ma ral E177.2.
- (223) E177.2では、ここにshadを置く。
- (224) btsun C18.23; E177.2 = bcum A21.7; B23.11
- (225) 'phrang A21.7; B23.11; C18.23 = 'phreng E177.2
- (226) a tsarya 'gro 'phro la rengs pa KhG:323.21 = a tsarya gro drengs pa A:21.7; C18.23-24, a tsarya gro dreng ba B23.12, a tsa ra ro rengs pa D105.6, a tsa ra gro rengs pa E177.2-3
- (227) gong A21.8; B23.12; C18.24 = mgo E177.3
- (228) 'gengs gsungs A21.8; B23.13; C18.24 = 'gang gsung E177.3
- (229) gzhong par gro thob KhG:323.22 = zhong par tshong pa tsho gro thab A21.8; gzhong par tshong pa tsho gro thob B23.13, gzhong par tshong sa tsho gro thab C19.1, gzhong par tshong pa dro thob D105.8, zhongs par tshong pa gro thob E177.4
- (230) gsungs A21.8; B23.13; C19.1 = gsung E177.4
- (231) mchis A21.9; B23.13; C19.1 = mchis zhu E177.4
- (232) B23.14, C:19.1では、このshadを欠く。
- (233) byung gsungs A21.9; B23.14; C19.2 = dbyung gsung E177.5
- (234) B23.14, E177.5では、このshadを欠く。
- (235) gsag A21.9; B23.14; C19.2 = sreg E177.5
- (236) thams thams A21.9; B23.14; E177.5 = tham tham C:19.2
- (237) brgyab C19.2; E177.5 = rgyab A21.10; B23.15
- (238) chu rka bcu = chus ka bcu A:21.10; B23.15; C:19.2; D:105.9, chu rka bdun E177.5.
- (239) gzhong A21.10; B23.15; C19.3 = zhong E177.6.
- (240) snye thang D:105.10 = ske 'phrang A:21.10; B23.16, snye 'phreng C:19.3; E177.6; KhG: 324.1-2.
- (241) 'gro ran gsungs A21.10-11; B23.16 = gro ran gsung C19.3-4; E177.7.
- (242) mkhar A21.11; B23.16; C19.4 = 'khar E177.5.
- (243) E177.7では'diを欠く。
- (244) mo A21.11; B23.17; C19.4 = po cig E177.7.
- (245) 'dul A21.11; B23.18; C19.5 = gdul E177.8.
- (246) gsungs/ A21.11; B23.17; C19.5 = gsung nas E177.8.
- (247) mthu A21.12; B23.19; C19.5 = thu E177.8.
- (248) C:19.5では、このshadを欠く。
- (249) gsungs A21.12; B23.18; C19.6 = gsung E177.8.
- (250) bcom ldan sems dpa'i sku gcig A21.12-13; B23.18-19 = bcom ldan 'das sems dpa'i sku gcig

- C19.6, bcom ldan 'das rdo rje sems dpa'i sku cig E177.9.
- (251) rdo mkhan A21.13; B23.19; C19.6-7 = rdo bzo mkhan E177.10
- (252) C:19.7では、ここにshadを置く。
- (253) btug sam A:21.13 = btub bam B23.20; C:19.7; E177.10
- (254) blta E177.10 = bltas A21.13; B23.20; C19.7
- (255) E177.10では、このshadを欠く。
- (256) sha ba'i E177.10-11 = sha po'i A21.14; B23.20; C19.7-8
- (257) brkos B23.21; C19.8; E177.11 = bskos A:21.14
- (258) shod C19.9; E177.11 = bshod A21.14; B23.21
- (259) zur mkhar 'phrang KhG:324.7 = zur dkar 'phrang D:105.16, zung mkhar 'phang A:21.14; B23.21; C:19.9, zung dkar 'phrang E177.11.
- (260) E177.12では、このshadを欠く。

sBa bZhed Zhabs bTags ma:
A Critical Edition of the Tibetan Text
and an Annotate Japanese Translation (3)

Shin'ichi TSUMAGARI

This paper presents part of an annotated translation of the '*Bashey with supplement*' (*sba bzhed zhabs btags ma*, hereafter called *Bashey*), a tibetan chronicle of events surrounding the reign of King Trisong Detsen (r. 755-797/804), reputedly as recorded by Ba Salnang (dba' gsal snang *or* sba gsal snang), one of the king's ministers. The reign of King Trisong Detsen is marked by the emergence of a unified Tibet as a major political and military force in Asia. During his time, the Tibetan Empire was at its peak and its armies invaded China and several Central Asian countries. He also expelled the Chinese monks and banished the Chinese *Chan* school of Buddhism from Tibet and adopted the Indian system. It was also during his time that Samye, the first monastery in Tibet, was founded by Padmasambhava who also established the supremacy of Buddhism and converted the indigenous deities into guardians of the Dharma.

I consider the study of the *Bashey* very important in studying the religious history of the ancient Tibet because it contains various narratives of the religious and cultural exchange of Tibetan ancient court with surrounding countries. The research that's been conducted on the text so far is, however, preliminary and still fragmentary, and it has not yet been translated into other languages in full. In view of the situation, the aim of the study is to set the stage for future comprehensive study of the *Bashey* by attempting its textual criticism and Japanese translation in full.